



学校だより 特別号

特集

学校評価（後期）令和3年3月

京都市立醍醐小学校

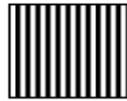
校長 横山 知史

TEL 571-0001

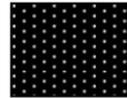
学校教育目標

「次代と未来を創る 醍醐の子を育てる」

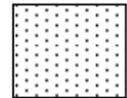
～広い視野と豊かな心を持ち、共に支え 高め合う子ども～



そう思う



大体そう思う

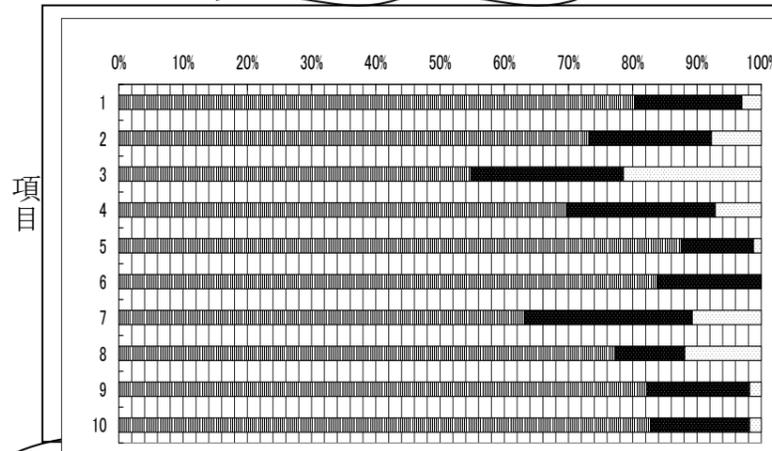


そう思わない

アンケート項目（児童）

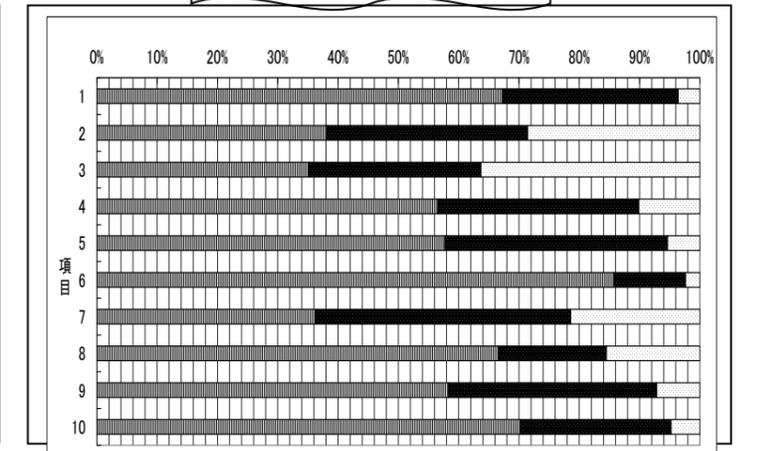
1	学校は楽しい。
2	家では自分から進んで学習している。
3	本を読むことが好き。
4	自分から進んであいさつをしている。
5	学校や学習のルールを守っている。
6	友だちと仲よくしている。
7	自分にはよいところがあり、好きだと思っている。
8	将来の夢や目標がある。
9	自分は地域の人たちに大切にされていると感じる。
10	自分の住んでいる「醍醐のまち」のことが好き。

児童1～3年



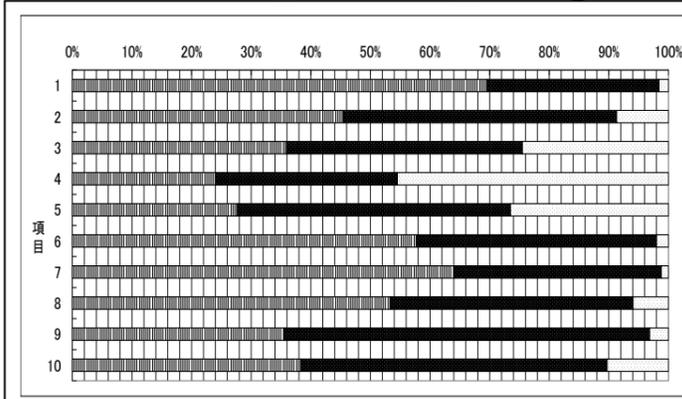
<自分は地域の人に大切にされていると感じますか>
前期と比べ、1～3年生は98.0%で4.3%上昇しています。4～6年生は93.0%あります。コロナ禍ではありますが、朝の見守り隊などの活動や地域の方々のお声かけなどで、子どもたちが「自分は地域の方々に見守られ大切にされている」という思いになったのだと思います。

児童4～6年



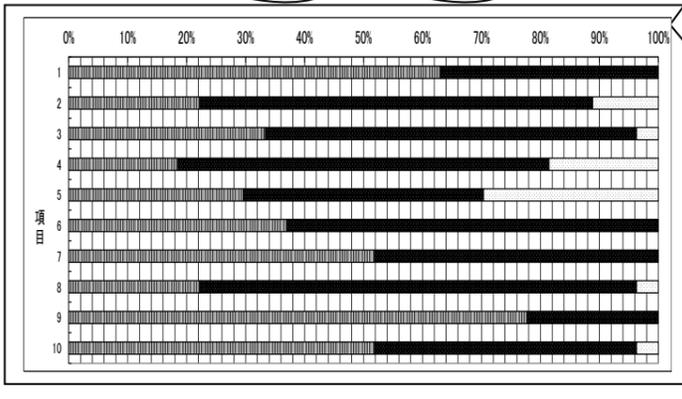
<学校は楽しいですか>
低学年97.3%、高学年は96.2%で前期と比べ、2.5%上がっています。コロナ禍で制限されていることもありますが、前期と比べると学習習慣が身につく、友達と一緒に学習できることが楽しいようです。一人一人の子が学習面でも楽しいと思える学校づくりに取り組んでいきます。

保護者



<学校は質問や相談をしやすい雰囲気がある>
前期の87.7%に対して、後期は91.7%と4.0%上がりました。学校に対して親しみをもっていただけるように、笑顔で対応すること、教職員が子どもの手本となるような丁寧な対応、あいさつをすることを心がけていきたいと思っています。

教職員



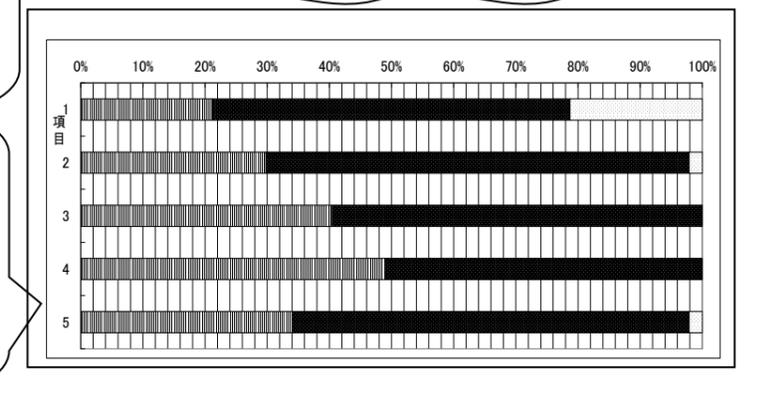
<子どもは友だちを思いやり、仲よくしている>
前期同様、100%となっています。人を思いやれるやさしい子ども、相手の意見を受け入れられる寛容な子どもを育てるために、人権教育をはじめ、コミュニケーション能力の育成、道徳教育の充実に取り組んでいきます。

<子どもは自分から進んで挨拶をしている>
前期の71.1%に対して、後期は79.0%と7.9%も上がりました。本校でのあいさつの取組の結果、少しずつ子どもたちのあいさつに対する意識の向上が見られてきたと思います。

アンケート項目（地域）

1	醍醐の子どもは自分から進んで挨拶をしている。
2	醍醐の子どもは学校や社会のきまりや約束を守っている。
3	醍醐の子どもは他人を思いやり、仲よくしている。
4	学校だよりやホームページで学校の様子が伝わっている。
5	学校は質問や相談をしやすい雰囲気がある。

地域



自ら学び続け、創造力のある子ども

家で家庭学習をしていますか（1年生15分、2年生30分、3年生45分、4年生60分、5・6年生60分～90分）

前期のアンケートでは、「そう思う」「大体そう思う」と回答したのは、86.9%で、後期は、1～3年は92.1%、4～6年は71.3%、平均して81.7%と5.2%下がっています。低学年と高学年とではずいぶん開きがあります。保護者の方の意見からも、宿題はできているが、それ以外の学習をすることについてはまだ十分に習慣づいていないようです。子ども自らが自身の課題を見つけ、計画的に学習を進められるように引き続き、学校と家庭との連携を密に進めていきます。

豊かな感性をもち、人やものを大事にできる子ども

学校や学級の約束やルールを守っていますか。

後期、「そう思う」「大体そう思う」と回答したのは、1～3年は98.7%、4～6年は94.9%、平均して96.8%と前期の97.6%より0.8%下がっています。保護者は98.0%で、前期の97.5%より0.5%上昇しています。教職員では100%という結果になりました。何のために約束やルールはあるのかを子どもたちに考えさせ、今後も「醍醐小学校の約束」を基本に全校できまりを守る態度の指導を引き続き徹底し、進めていきます。

心身をきたえ、自己指導力を高めていける子ども

自分から進んで体を動かしている。

後期、「そう思う」「大体そう思う」と回答したのは、1～3年は92.8%、4～6年は80.9%、平均して86.9%と前期の86.8%と0.1%上がっています。低学年の子どもの方が高学年の子どもより体を動かしているという結果が出ています。高学年になるほど、学習面や委員会活動などの特別活動などがあって忙しくなり、体を動かす機会が少なくなるのかもしれませんが。新型コロナウイルス感染症の影響で、放課後残って外で遊ぶことができないときもありました。健康な体づくりのためにも、休み時間にはできるだけ教員も子どもたちと一緒に運動場や中庭で体を動かす機会をつくっていききたいと思います。

～「ふるさと醍醐」で子どもを育む、保護者・地域・学校の連携～

令和3年3月12日（金） 学校運営協議会より

水口理事長より

・今年度は、コロナの影響で様々な行事が変更となった。しかし、家庭内でも子どもたちの思いやりの心も育ち、プラスの面もある。

・地域・学校・PTAの皆様の連携を密にし、今後も醍醐小学校の子どもたちのために努力していきたい。

・醍醐小学校創立150周年を1年後に控え、地域・学校・PTAの皆様の連携を一層密にしていきたい。



学校長より

・学校が楽しい、醍醐の町が好きだ、勉強が楽しいなどの思いをもてる子どもたちを目指して取り組んできた。

・学校評価アンケートの結果から、授業が楽しい、学校が楽しいという児童、醍醐の町が好きだという児童も増えた。またコロナ禍の中でも、将来の夢や目標をもっている児童が多いことが分かる。

・コロナ禍の中でも様々な取組を行うことができた。もちつきパーティーは、できなかったが、地域の皆様のご協力のもと、お餅を子どもたちに配布していただいた。また先日、子どもたちの登下校の安全のために、中野食料品店前に信号機を設置していただくことができた。



生徒指導主任 住得教諭より

・昼間、廊下ですれ違ったときに「こんにちは」というあいさつができる児童が増えてきた。

・今後も、地域の皆様、保護者の皆様も児童に声掛けをしていただくとありがたい。



本校のICT教育の取組について 教育メディア主任 松下教諭より

・今年度より、GIGAスクール構想のもと、子どもたち一人一人に学習用のタブレットが配布された。また各教室に65インチの大型テレビと学習用のタブレットを収納する保管庫が設置された。

・タブレットのログインの仕方、ローマ字入力の練習、インターネットを使っての調べ学習、プレゼンテーションづくり、ロイロノートの活用、動画編集、インターネットを活用してのアンケートの取組など、各学年に応じて配布された学習用タブレットを使って授業に取り組んでいる。

・来年度以降の取組、校内組織体制を整えて情報教育を充実させていきたい。またタブレット端末を家庭に持ち帰って家庭学習を行うなど、より一層情報教育を発展させていきたい。

